

### 第三者評価結果

事業所名：クオリキッズ港南中央保育園

#### A-1 保育内容

A-1-(1) 全体的な計画の作成	第三者評価結果
<p>A-1-(1)-①</p> <p>【A1】 保育所の理念、保育の方針や目標に基づき、子どもの心身の発達や家庭及び地域の実態に応じて全体的な計画を作成している。</p>	b
<p>&lt;コメント&gt;</p> <p>全体的な計画は保育理念・保育方針・園目標・保育目標を踏まえて作成しています。年間指導計画は4期に分けており、担当が中心となって子どもの発達過程や家庭の状況・保育時間などを考慮して作成しています。園では、職員全員で全体的な計画を共有理解のうえ日々の保育に努めています。計画の見直しは、必要に応じておこなっていますが、定期的に保育内容を振り返る仕組み作りの検討が望まれます。</p>	
A-1-(2) 環境を通して行う保育、養護と教育の一体的展開	第三者評価結果
<p>A-1-(2)-①</p> <p>【A2】 生活にふさわしい場として、子どもが心地よく過ごすことのできる環境を整備している。</p>	a
<p>&lt;コメント&gt;</p> <p>室内の壁や手洗い場など白色で統一しており、白い壁に子どもたちが作成した、色鮮やかなクリスマスリースや絵を掲示しています。保護者からは、「園内が清潔で整理された空間になっている」、「朝から職員が園周りの清掃や消毒など整備している」と声が寄せられています。職員は子どもが生活するにふさわしい安心・安全な環境を整えています。乳児クラスの床はクッション素材になっており、子どもが落ち着くようパーテーションを使い空間を分けるなど工夫しています。</p>	
<p>A-1-(2)-②</p> <p>【A3】 一人ひとりの子どもを受容し、子どもの状態に応じた保育を行っている。</p>	a
<p>&lt;コメント&gt;</p> <p>入園時に保護者から提出された児童票をもとに、子どもの発達過程など個人差を十分に把握しながら保育をしています。日々の保育では、子どもが安心して自分の気持ちが表現できるよう、職員は子どもに声をかける時は、落ち着いた声で、分かりやすい言葉で話すように心がけています。職員は毎月の職員会議で、子どもとの関わり方に偏りがないよう、日々の保育内容について情報共有しています。</p>	
<p>A-1-(2)-③</p> <p>【A4】 子どもが基本的な生活習慣を身につけることができる環境の整備、援助を行っている。</p>	a
<p>&lt;コメント&gt;</p> <p>子ども一人ひとりの発達に合わせて、食事・睡眠・清潔などの基本的な生活習慣が身につくよう保育に努めています。保護者とは連絡帳を通じて、園や家庭での様子など個々の成長と一緒に見守っています。子どもが自分でやろうとする気持ちを尊重しながら声掛けし、達成感を味わえるように努めています。</p>	
<p>A-1-(2)-④</p> <p>【A5】 子どもが主体的に活動できる環境を整備し、子どもの生活と遊びを豊かにする保育を展開している。</p>	a
<p>&lt;コメント&gt;</p> <p>園独自のカリキュラムがあり、リトミック・英語教室・体操教室・サントレ(言葉の教育)を保育に取り入れています。また、子どもが主体的に活動できるよう自由に玩具を選べる環境を整備しています。外部講師によるリトミックを週1回取り入れており、音楽に合わせて体を動かしながら聴覚やリズム感覚、自分でイメージした動きやリズムを表現しています。子どもの様子は保育日誌に記録しており、職員間で情報共有をしています。</p>	
<p>A-1-(2)-⑤</p> <p>【A6】 乳児保育(0歳児)において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。</p>	a
<p>&lt;コメント&gt;</p>	

0歳児の年間計画は、「家庭での生活と園での生活が常に連携され、無理なく園生活に慣れる」となっており、職員はゆったりとした言葉かけやスキンシップをとりながら、子どもの表情や様子を感じ取り情緒的な絆や安定した関係を築いています。子どもは、まだ言語表現ができないことが多いため、日頃からよく様子を観察して一人ひとりの長を把握し、表情や仕草などから体調を確認しています。保護者とは、連絡帳や登降園時に園での様子を伝えるだけでなく、家庭での生活の様子を聞かせてもらい、子どもの様子を情報共有しています。

<p>A-1-(2)-⑥ 【A7】 3歳未満児(1・2歳児)の保育において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。</p>	a
---	---

<コメント>  
子ども一人ひとりの状態に応じ、子どものやりたい気持ちを尊重しています。職員は、子どもの自分でやろうと言う気持ちを受け止め、時間がかかっても子どもが納得するまで見守るよう努めています。子どもの自我の育ちはどんなことでも否定せず、思いを受け入れ子どもの気持ちに寄り添うことを大切にしています。保育内容は個別カリキュラムに記録して、職員で情報共有しています。登降園時や個別面談などを通して、子どもの成長や発達を共有するなど、保護者と連携しています。

<p>A-1-(2)-⑦ 【A8】 3歳以上児の保育において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。</p>	a
--	---

<コメント>  
3歳児以上の保育については、集団の中で安心して興味関心のある遊びを中心とした活動に取り組める環境を整えています。子どもたちは、集団の中で友だちと一緒に、劇遊びやお店屋さんごっこをして遊んでいます。週1回のリトミックでは年齢別に分かれておこなっており、リトミック講師が部屋を移動する際は、一旦異年齢が合同となり音楽に合わせて皆でリズムに合わせて楽しんでいきます。5歳児のリトミックでは、一人ひとりがリズムに合わせて鍵盤ハーモニカの演奏を楽しんでいます。

<p>A-1-(2)-⑧ 【A9】 障害のある子どもが安心して生活できる環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。</p>	a
---	---

<コメント>  
障がい児保育については、重要事項説明書に明示しており、市の保健師や療育センターと連携体制が図れており、必要な時には関係機関から保育士の関わり方などの助言を受けています。個別のカリキュラムを作成し、本人の気持ちを優先しながら集団生活に対応できるように支援しています。また、職員は障がいのある子どもの保育に関する研修に参加し知識や情報を得て、職員間で情報共有し理解を深めています。保護者とは連絡帳や面談を通して、子どもの関わり方や対応を確認しており、園と家庭での連携に努めています。

<p>A-1-(2)-⑨ 【A10】 それぞれの子どもの在園時間を考慮した環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。</p>	a
--	---

<コメント>  
子どもにとって長時間の保育がストレスにならないよう、家庭での生活リズムを考慮して安心して過ごせるように努めています。絵本の読み聞かせをする時は、家で過ごしているような落ち着いた環境に近づけるよう工夫しています。子どもが、その日の体調や機嫌が良くない場合は、職員がゆったりと関わるようにしています。子どもの様子は毎日のクラス会議で、申し送り内容を職員間で共有しています。職員は降園時に保護者に子どもの様子を伝えて、家庭との連携が取るように心がけています。

<p>A-1-(2)-⑩ 【A11】 小学校との連携、就学を見通した計画に基づく、保育の内容や方法、保護者との関わりに配慮している。</p>	a
--	---

<コメント>  
5歳児の年間目標は、「様々な体験をして豊かな心を育み、就学への意欲を高める」となっており、小学校生活を見通した保育に努めています。生活の中では、時間を意識する声掛けや、今まで使用していたルータオルから、各自ハンカチをポケットに入れて手を洗ったときには自分のハンカチを使用しています。午睡時間を減らし、就学後の生活に戸惑いがないよう準備をしています。保護者とは、個別面談や降園時などに就学に向けた細やかな相談に対応しています。保育所児童保育要録を作成し、園で育んできた子ども達の成長を小学校へ伝えていきます。長引くコロナ禍で以前のように小学校との交流はできませんが、職員が小学校の様子などを話をしており、子どもは小学校がどのようなところなのかイメージを膨らませています。

<p>A-1-(3) 健康管理</p> <p>【A12】 A-1-(3)-① 子どもの健康管理を適切に行っている。</p>	a
---	---

<コメント>

子どもの健康管理に関するマニュアルと保健計画を作成しています。毎日の連絡帳と登園時の保護者との会話で家での様子と健康状態を確認しています。職員は保護者からの情報と子どもの様子を観察することで、子ども一人ひとりの健康を把握しています。園での、子どもの体調の変化やケガなどの対応については、小さなことでも報告するなど心がけており、保護者とのコミュニケーションに努めています。乳幼児突然死症候群（SIDS）に関しては、職員の周知はもとより保護者にも入園時の説明会や懇談会で情報提供し、睡眠時は5分おきに手を当てて胸が上下していることと、顔色と体位の確認しています。

【A13】 A-1-(3)-② 健康診断・歯科健診の結果を保育に反映している。	a
--	---

<コメント>  
園では、健康管理について重要事項説明者に明示し保護者に説明しています。園の嘱託医による健康診断と歯科検診は年2回実施しており、歯科検診結果は自治体に報告しています。健診の結果は保護者に伝えて必要に応じて受診を促したり、家庭でのケアをお願いしています。身体測定は毎月おこなっており、結果については個別の計測表に記録して保護者に報告しています。健診結果などを踏まえ、年間指導計画や保健計画に反映させています。

【A14】 A-1-(3)-③ アレルギー疾患、慢性疾患等のある子どもについて、医師からの指示を受け適切な対応を行っている。	a
---	---

<コメント>  
アレルギー疾患のある子どもの対応については、入園説明会や園見学の時に説明しています。園は、重要事項説明書に横浜市が策定する「保育所における食物アレルギー対応マニュアル」に則り、園対応マニュアルを策定し、それに基づき適切な対応に努めています。アレルギー疾患のある子どもの給食は提出された、医師からの生活管理指導表に基づいて保護者と連携をとりながら適切に対応をしています。食事の時は誤食防止や安全のためアレルギー疾患のある子どもに使用する布巾は他児と分けており、職員がそばに付き添うなどの配慮をしています。

A-1-(4) 食事	第三者評価結果
【A15】 A-1-(4)-① 食事を楽しむことができるよう工夫をしている。	b

<コメント>  
年間の食育計画に沿って、子どもの年齢や発達に応じた食育を行っています。子どもたちは、野菜の栽培やピーラーを使用して人参やとうもろこしの皮むきなど、調理体験をしています。園の給食は、栄養士3名が調理を担当しており、子どもが必ずしも完食を目指すのではなく個人差や食欲にに応じて、食材の切り方や調理加減、盛り付け量など調整して提供しています。職員は落ち着いて食事がとれるよう、子ども一人ひとりの様子を見ながら声掛けをしています。保護者には毎月の献立はお知らせしているほか、実際の食事量や形状が見られるように給食サンプルを提示していましたが、コロナ禍の影響により行事食のみの写真掲示に切り替えています。感染状況が落ち着いてきている現在は、掲示方法を改めて検討中です。

【A16】 A-1-(4)-② 子どもがおいしく安心して食べることのできる食事を提供している。	a
--	---

<コメント>  
職員は、子ども一人ひとりの離乳食の進捗状況を給食会議で情報共有しており、子どもの発達状況や嚥下状態に合わせています。季節に合わせたイベント食を提供しており、旬の食材を使用しています。目で食事が楽しめるよう盛り付けを工夫しており、アンパンマンライス・かえるごはん・すいか型ごはん・もみじごはん・ぶどう型ごはんなど季節感を味わっています。調理室の衛生については、衛生マニュアルに基づき、毎日管理をおこなっています。

## A-2 子育て支援

A-2-(1) 家庭と緊密な連携	第三者評価結果
【A17】 A-2-(1)-① 子どもの生活を充実させるために、家庭との連携を行っている。	a

<コメント>  
職員は保護者と連絡帳を通じて日常的な子どもの様子を情報交換しています。職員は毎日、昼ミーティングで子どもの様子を共有しており、送迎時に保護者に伝えています。保護者面談は年1回ですが、保護者からの希望があればいつでも対応しています。子どもの生活を充実させるため、保育参観や行事等を通して保育の意図や保育内容について、保護者に理解を得る機会を設けています。行事後はアンケートボックスを設置し、保護者からの感想や意見を次回の検討事項にしています。

tuujite

A-2-(2) 保護者等の支援	第三者評価結果
【A18】 A-2-(2)-① 保護者が安心して子育てができるよう支援を行っている。	a

<コメント>

園では保護者が安心して子育てができるよう、相談を受けた時はすぐに対応しています。相談内容によっては職員会議で職員間で共有しています。保護者からの相談は、担当の職員だけが対応するのではなく、園長や主任が助言し適切な対応に努めています。配慮が必要な場合には園長が対応するなど保護者との信頼関係を築いています。食に関する質問や相談があるときは、職員と栄養士で連携を図っています。

【A19】 A-2-(2)-②  
家庭での虐待等権利侵害の疑いのある子どもの早期発見・早期対応及び虐待の予防に努めている。

b

<コメント>

「虐待対応・防止マニュアル」を整備しています。職員は、児童虐待を早期に発見しやすい立場にあることを自覚して対応しています。日々の生活では、着替えの時や子どもの機嫌、普段の何気無い会話にも注意を払っており、気になることがある場合は速やかに園長に報告し、全職員で情報共有するようにしています。児童相談所や子ども家庭支援課などの関連機関と連携をとっています。それぞれの職員が、研修など通じて理解を深める機会を設けて、虐待防止の意識付けを継続していきます。

A-3 保育の質の向上

A-3-(1) 保育実践の振り返り（保育士等の自己評価）

第三者評価結果

【A20】 A-3-(1)-①  
保育士等が主体的に保育実践の振り返り(自己評価)を行い、保育実践の改善や専門性の向上に努めている。

a

<コメント>

年度末に職員会議で指導計画の振り返りをしています。子どもが主体であり、発達記録や個人カリキュラムに応じた保育内容になるよう話し合いを重ね、保育の質の向上につなげています。職員は受講した研修内容の報告書を作成しており、研修内容を職員会議など通じて職員間で情報共有し知識の向上に努めています。職員は自身の自己評価を毎年おこなない集計表を作成して、会議で個々の保育観について共有する機会を設けています。